## 上智らしい教育を推進し、教育の質を高める

# 教育イノベーション・プログラム

### 今年度は22件が採択

教員の教育方法の改善や向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の一環として、六月十三日に、「二〇一一年度教育イノベーション・プログラム（※）報告会」が行われた。昨年度採択された二十七件のうちの七件について、代表者がプログラム内容やその成果そして今後の課題等を報告し、全件の成果報告書が約六十人の参加者に配付された。

成果を報告する渡部教授

報告では、「内容言語統一型英語教育プログラムの開発―上智大学学生向け英語養成プログラムの実践および効果の測定」（代表者：渡部良典／外国語学部）、「チューター制導入による学生の外国語能力向上プラン」（代表者：吉田研作／一般外国語教育センター）といった語学教育における新たな試みのほか、「大学教育における〈身体知〉の再構築～上智モデルの提案に向けて～」（代表者：鈴木守／文学部）、「地域から学ぶ人間の尊厳：未来創成のための地域インターンシップ」（代表者：田渕六郎／総合人間科学部）等の報告があった。

なお、二〇一二年度は、新規プログラムとして、「批判的思考の育成：教育実践の効果測定の取り組み」（代表者：津波古澄子／総合人間科学部）、「経済学・経営学分野における外国語教育プログラム開発と教育国際化の支援」（代表者：上山隆大／経済学部）等四件が引き続いて実施される。

**※上智大学教育イノベーション・プログラム**：上智大学創立百周年記念事業「個性が際立つ教育研究の進展（〝上智の精神〟の発揚）」の一環として、二〇〇九年度に開始。上智らしい教育を推進し、教育内容や方法の改善向上によって教育の質を高めるなど、教育の活性化や発展に寄与するための取り組みを推奨するもの。最長三年間継続することができる。本プログラムの経費として、二〇一二年度は総額約二千六百万円が充てられる。

## 大阪サテライトキャンパス

# 西田ひかる氏が対談
# テーマは「子育ては楽しい！」

昨年開設された上智大学大阪サテライトキャンパスでは、四谷キャンパスと同様に「ソフィア・コミュニティ・カレッジ」として一般向けの公開講座を開講している。今年度の第一回目として、六月十日に女優・歌手で比較文化学部比較文化学科卒業生でもある西田ひかる氏と総合人間科学部教育学科の北村友人准教授が「子育ては楽しい！」というテーマで対談形式の講義を行ない、約七十人が参加した。本講座は、上智学院男女共同参画推進室との共催事業でもあり、当日は乳幼児や小学生の子どもと一緒の参加者が目立った。

育児経験を語る西田氏

講義では、はじめに、北村准教授が、日本とイギリスやアメリカの教育改革についての比較を紹介したほか、「教育学から見た子育て」という観点で、教育学を専門とする自身が子育てをする中で得られた「気付き」について触れた。

引き続き西田氏が、幼少期からアメリカで過ごした異文化体験や芸能界と学業の両立に関する話などを中心に紹介。また、どんなに多忙な中でも学業は疎かにさせなかった西田氏の両親の教育方針が自身に与えた影響や、現在二児の母として子育てに励んでいる経験を踏まえた独自の「教育法」について熱く語った。

最後に、「子育てに正解はないものの、子どもが小さい時に思い描いた『どういう大人に成長して欲しいか』を忘れず、お受験や大学選びといった『道筋』が子育ての『目的』にすり替わることがないよう子育てすることが大事」とメッセージを送った。

## 教育・研究に貢献する意義を再確認

# 上智大学後援会 新会長 眞﨑 修

五月二十七日に行われた上智大学後援会総会にて、新会長が選出された（詳細本紙372号）。今回は、新会長に選出された眞﨑修氏（神学部四年次生保証人）から新会長としての抱負をお寄せいただいた。

当後援会は、上智大学創立六十周年の一九七三年に、大学の財政面の支援を行うことを目的として、当時のご父母の皆さまによって結成された任意の団体です。当時、それぞれの教育の質を高く維持するため、また設備等の費用を賄うために財政面からも大学の発展を援助したいとの想いもあってこの後援会が発足いたしました。

後援会会員の会費は、その時々に応じてその使われ方が決まりますが、主に奨学金の支給、学内諸設備の改修、課外活動団体の助成などに充てられています。最近は震災に関連して被災者緊急支援奨学金といったものにも支出されました。

教育や研究というものはその質を高めようとすると費用がかかるものです。その質を高める努力は、はっきりと目に見えるものではなく、成果がすぐに現れるものでもありません。しかし、一人ひとりの拠出額がそれほど大きな金額でなくても継続して行われ、かつ一人でも多くのご父母の方の参加を仰ぐことによって大きな実を結ぶものと確信しております。

上智大学は二〇一三年に創立百周年を迎えます。大きな節目を迎えるその準備段階の今年、後援会の活動もまた重要な年を迎えます。上智大学が世界に並び立つ大学として、高いレベルの教育、研究環境を実現し、維持できるように多くのご父母の皆様方のご協力をお願いする次第です。その質を高める努力は、はっきりと目に見えるものではなく、成果がすぐに現れるものでもありません。しかし、一人ひとりの拠出額がそれほど大きな金額でなくても継続して行われ、かつ一人でも多くのご父母の方の参加を仰ぐことによって大きな実を結ぶものと確信しております。

上智大学は二〇一三年に創立百周年を迎えます。大きな節目を迎えるその準備段階の今年、後援会の活動もまた重要な年を迎えます。上智大学が世界に並び立つ大学として、高いレベルの教育、研究環境を実現し、維持できるように多くのご父母の皆様方のご協力をお願いする次第です。

# 司法試験結果（短答式）で4位の合格率

## 私学（受験者百人以上）

六月七日、法務省司法試験委員会は、今年五月に実施した司法試験の受験者八千三百八十七人のうち、短答式試験（法律の基礎知識や法的な推論の能力を有するかどうかを判定する試験）の合格に必要な成績を得た者（以下、合格者）は五千三百三十九人であったと発表した。今後は、論文式試験の採点を経て、九月十一日に最終合格者が発表される。

本学の状況は、受験者数百八十三人に対して合格者数が百二十三人で、合格率は六十七％であった。合格者数でみると、全国七十四校中十位と、トップ10入りを果たした。合格率では、全国七十四校中十六位、受験者数が百人以上の法科大学院の中では十三位、私学では、慶応義塾大学、中央大学、早稲田大学に次いで、四位という結果であった。（**別表参照**）

全体の受験者数は八千三百八十七人、合格者が五千三百三十九人で、平均合格率は六十四％だった。合格者の平均年齢は三十一歳、性別構成では、男性が七十六％、女性は二十四％であった。

今回の試験結果について、原強法科大学院長は「今回の結果は、満足できるものとは言い難いが、年々厳しさを増している司法試験短答式試験において、修了生は一定程度の結果を残してくれたものと評価したい。来年は今年を上回る結果を出せるよう、これからも教員と学生が一体となって、日々努力していきたい」と話している。

（別表）平成24年度司法試験　短答式試験結果
受験者100人以上大学院、合格率ランキング（上位15位）

| 順位 | 法科大学院名 | 私立 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率（%） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 一橋大法科大学院 | | 135 | 114 | 84% |
| 2 | 京都大法科大学院 | | 280 | 233 | 83% |
| | 首都大東京法科大学院 | | 101 | 84 | 83% |
| 4 | 慶應義塾大法科大学院 | * | 347 | 285 | 82% |
| | 中央大法科大学院 | * | 489 | 399 | 82% |
| 6 | 神戸大法科大学院 | | 131 | 105 | 80% |
| | 東京大法科大学院 | | 379 | 303 | 80% |
| 8 | 北海道大法科大学院 | | 159 | 123 | 77% |
| 9 | 大阪大法科大学院 | | 177 | 128 | 72% |
| 10 | 大阪市立大法科大学院 | | 102 | 72 | 71% |
| 11 | 早稲田大法科大学院 | * | 472 | 332 | 70% |
| 12 | 東北大法科大学院 | | 173 | 120 | 69% |
| 13 | 上智大法科大学院 | * | 183 | 123 | 67% |
| 14 | 名古屋大法科大学院 | | 135 | 86 | 64% |
| 15 | 立命館大法科大学院 | * | 236 | 147 | 62% |
| | 明治大法科大学院 | * | 401 | 247 | 62% |

※合格率は小数点第一位を四捨五入

## ドイツ語学科　フランス語学科

# テレビ会議システムを活用した遠隔授業

今学期、外国語学部ドイツ語学科とフランス語学科の正課、非正課の授業において、テレビ会議システムを活用した遠隔授業がドイツ、フランスの大学との間で行われている。

**ドイツ語学科では、木村護郎クリストフ教授が担当する「演習（ドイツ社会研究）1」において、ドイツのケルン大学日本学科と協力しながら、学部学生が文化政策をめぐって、互いに自国の事例などを紹介するような場面で活用されている。**

フランス語学科においては、ルーアン大学の修士課程から今期本学が研修生として受け入れているソフィー・ジャールさんが専攻する「外国語としてのフランス語教授法」の研究活動の一環として非正課の授業に活用

テレビ会議を活用するジャールさん

されている。ジャールさんは自身が籍をおくルーアン大学大学院の学生たちとフランス語学科の学生たちとの間に立ち、システムを活用した新たな語学教育の可能性を探求している。

テレビ会議システムは、一九九七年から開始されたCALLシステム（コンピュータ支援語学学習）を発展拡充する過程において二〇〇三年に導入された。インターネット回線を利用して、複数対複数の対面通信が可能である。遠隔授業の他には、博士論文の審査などにも活用された実績がある。相手地域との時差の問題や通信の安定性などの課題も残すが、今後もさまざまな用途に活用される可能性がある。

## 創立百周年記念 募金だより㊺

### 深まる卒業生と在校生との絆

五月二十七日、卒業生・在校生共同企画による「オールソフィアンの集い」（「ASF（オールソフィアンズフェスティバル）」）が開催されました。

当日、外国語学部ドイツ語学科同窓会の発足会では、昨年末ドイツ留学を目前に交通事故で亡くなられた松本あす加さん（二〇一〇年外独入学）のお父様、松本泰様にご講演を賜りました。松本様は、あす加さんがどれだけドイツへの留学を楽しみにしていたか、また、そのためにどれだけ努力をしてきたかについて語り、発足会に集った四十人近くの卒業生に「松本あす加・ドイツ語学科奨学基金」への募金の協力を呼びかけられました。なお、「松本あす加・ドイツ語学科奨学基金」のためとして設置した募金箱には、約二万円のご寄付が集まりました。

このほか、金祝燦燦会（卒後五十周年を祝う会）の部屋には、大泉孝第五代学長の年譜パネル、先生が実際に使用されていた机等が展示され（**写真**）、懐かしそうに年譜を眺める教え子達の姿も見られました。「大泉奨学金」のためとして設置した募金箱にも二万円を超えるご寄付が集まりました。

ご協力いただいた皆様に心から御礼を申し上げるとともに、今後も卒業生と在校生との絆がより深まることを願っています。

募金受付状況（2012年5月31日現在）

| | 件数 | 金額 |
|---|---|---|
| ご父母（大学・短大） | 4,913 | 210,024,271 |
| 卒業生（大学・短大・社専） | 13,575 | 734,374,663 |
| 教職員 | 3,050 | 118,861,867 |
| 企業 | 373 | 1,084,220,940 |
| 篤志家など（SJを含む） | 290 | 533,226,162 |
| 合計 | 22,201 | 2,680,707,903 |

注1）入金件数／金額を集計しています。
注2）分割払い、給与天引による寄付は、その都度、件数にカウントされています。
注3）被災学生支援のため、累計107,262,893円賜りました。